

愛知 図書館協会々報

特集 変わりゆく図書館

2021年、愛知県では新しい図書館のオープンが相次ぎ大きな話題を呼んだ。一方、いくつかの図書館では周年の大きな節目を迎え記念事業が行われた。また、電子書籍サービスを開始する図書館が増え、図書館のサービスも時代とともに変化している。今号では、県内の図書館とそのサービスの新しい動きを特集する。

小牧市中央図書館の開館について

小牧市中央図書館 館長 矢本博士

■はじめに

2021年3月27日に、小牧駅の西に「小牧市中央図書館」が開館した。開館に至るまでには、平成27年に実施された住民投票により、一旦計画が白紙となるなど紆余曲折があり、平成20年度の基本構想策定から実に13年の年月を要した。



コロナ禍の中での開館であったが、1日平均では、平日は、約1,700人、土日祝日は、約2,800人と多くの方にご来館いただいている。

■図書館建設の背景

旧図書館は、施設の老朽化と書架や閲覧席が少ないなどの施設の狭あい化、図書館利用者の減少という問題を抱えており、さらに本市には、中心市街地の活性化というまちづくりの課題があった。

こうした課題に対し、本市が目指したまちづくりの将来像は、「市民が求める魅力ある新たな図書館」を建設し、多くの方に来館いただき、その図書館のにぎわいが、中心市街地にも波及するというものであった。

■市民要望の反映

新たな図書館に対する市民ニーズを掴むため、設計段階で市民アンケート調査、中学生や高校生を対象としたスクールミーティングや市民ワークショップを実施した。

そして、多くの市民からの要望を取り入れ、これまでのような貸出し中心の図書館ではなく、カフェやテラス席を含む多種多様な座席、Wi-Fi環境など最新の設備を有し、飲食可能で、本を手にお茶を飲みながらゆったりと過ごせる「居心地の良い滞在型の図書館」を目指し、設計や運営において居心地の良さや利用のしやすさを追求することとした。

■居心地の良い内装空間

本館の一番の特徴は、各階が連続的に繋がる4層の吹抜空間である。吹抜空間による視線の抜けにより、それぞれの目的に応じて自由に過ごす利用者の様子が同時多発的に垣間見え、多様性に富んだ居場所を演出している。

館内には来館者が、それぞれお気に入りの席で、読書や学習、友人との会話などを楽しんでもらえるように、様々な種類の座席を約600席配置した。

座席の配置は、居心地よく滞在できるように、一人掛けの席を多くし、席と席の間隔は広めに設定した。

こうした建築デザインが評価され2021年度グッドデザイン賞を受賞した。



■図書館運営のICT化

全ての資料にICタグの貼付を行い、自動貸出機、自動返却機、予約本受取コーナー、セキュリティゲートなどの各種機器を導入することにより、貸出・返却の

自動化によるカウンター事務の簡略化、利用者の利便性向上、蔵書点検期間の短縮などを図った。

また、座席予約システムやスマートフォンを利用者カードとして利用できるサービスを導入した。

この図書館運営のICT化は、飛沫感染や接触感染のリスクを下げるという効果があり、コロナ禍において図書館運営の大きな助けとなった。

■小牧市中央図書館のサービス

本館においては、図書館運営の基本である豊富な蔵書とレファレンスサービスの充実を図るとともに、居心地の良い図書館の付加価値として次のようなサービス、運営を行っている。

①エントランスエリアの午前8時からの開館

本館の開館時間は、午前9時から午後9時までであるが、交通の利便性が高い小牧駅前に立地したことや、より多くの方にご利用いただくことを考慮して、1階エントランスエリアは、気軽に読める雑誌や旅行本、料理本などを配架し、カフェとともに午前8時から開館している。

②カフェスペースの設置と飲食可能

1階に市民から要望の多くあったカフェスペースを設置し、店舗の内装工事を行っていただく形で出店者の公募を行った結果、スターバックス コーヒー ジャパンに出店いただき好評をいただいている。

飲み物は、ふた付の容器に限り館内全ての席で可能とし、食事は、各階に可能な席を設けた。もちろん、カフェの中で図書館の本を読むことも可能である。

③Wi-Fi環境の整備とコンセントの設置

館内にWi-Fiを整備するとともに、約230席にコンセントを設置した。

④会話の容認と館内BGM

当館では居心地の良い空間の演出の1つとして常時、館内にBGMを流している。これは、館内での会話を容認しているため、会話の声を薄める効果もある。

■おわりに

今は、ネット環境に情報があふれ、スマホがあればほとんどのことが調べられる時代である。昔のように、図書館で本を読んだり、図書館の資料で調べものをしようという方は、今後も少なくなる一方である。

本市では新図書館の建設というチャンスに恵まれ、これまでの貸出し中心の図書館からの市民の要望を踏まえた滞在型の図書館への転換を図ることができた

が、図書館を取り巻く環境は、各地域によって大きく違うため、当館が他自治体にとっても良い図書館かと言うと、決してそんなことはないと考えている。

飲食禁止で静寂な空間を提供している図書館の職員も、飲食可能でBGMの音楽を流している当館の職員も何故そうしているのかと聞かれたら、おそらく「利用者に居心地の良い空間を提供するため。」と答える。手段は違うが、利用者に良い環境を提供したいという目的は同じなのである。画一的な正解はないし、市民の要望が高度化、多様化していく以上、正解も常に変化していくと思う。

これからも、他自治体図書館のサービスや運営を参考にさせていただき、さらに多くの市民に愛される図書館を目指していきたいと思う。

豊橋市まちなか図書館

豊橋市まちなか図書館 館長 種田 澤

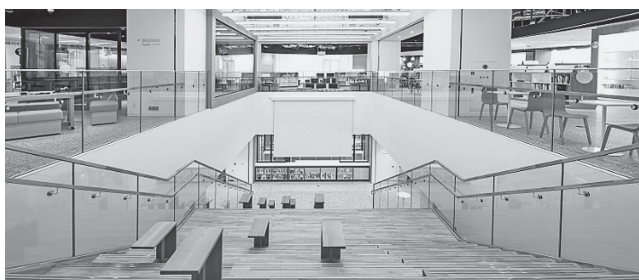
2021年11月、JR豊橋駅から徒歩5分の場所にある複合施設内に、まちなか図書館はオープンした。コンセプトは、“知と交流の創造拠点”。本を読む・借りるだけの場所ではなく、体験を共有・発信する場となることを目指している。“まちなか”に建てられた分館としての強みを生かし、これまで図書館を利用することのなかった人たちにも訪れてもらえるよう、中央館とは違った役割やチャレンジを行っている。



エントランス

■思い思いに過ごせる図書館

エントランスを入ると最初に目に飛び込んでくるのが、2つのフロアをつなぐ中央ステップ。階段状の座席では、読書をしたり、おしゃべりをしたり、利用者が思い思いに過ごす様子が見られる。週末には、トークショーや映画の上映なども行われ、その場に居合わせた多くのひとが音につられて集まってくる。



中央ステップ

館内にはカフェも併設し、会話や飲食もOK。(禁止エリアあり)。520席ある座席の一部はインターネットから事前予約も可能だ。静かに読書を楽しみたいという方には、防音ガラスで仕切られたラウンジを用意。じっくり読書を楽しんでもらえる空間になっている。



ラウンジ

■ひとつつながり、まちとつながる

館内は5つのゾーン、8つのスペースに分けられている。蔵書はゾーンごとのコンセプトに沿って、NDCではなくテーマごとに配架。中央館とは蔵書構成も差別化し、他館には置いていないようなビジネス書やクリエイター向けの実用書の収集にも力を入れた。

さらに、活字から得られる情報だけでなく、人を介した生の情報発信も重視。子ども向けのおはなし会には市内の高校生が読み手として参加したり、近隣の病院と連携した健康講座や大学で行っている授業を一般向けに図書館で公開したオープンゼミを行ったりと、開館からこれまでには、まちの人を巻き込んで様々なイベントを開催した。訪れる度に新しい発見を得られるような図書館づくりを目指している。



書架の様子

豊川市小坂井図書館リニューアルオープン

豊川市中央図書館 渡邊里恵

豊川市小坂井図書館は豊川市中央図書館の分館であり、豊川市小坂井図書館・小坂井支所・小坂井生涯学習センター・こごかい児童館・南部高齢者相談センター小坂井出張所が入る複合施設「こごかい葵風館(きふうかん)」の新設に伴い、建物の2階に、2021年5月にリニューアルオープンした。



こごかい葵風館 外観

開架閲覧室は背の低い木製書架を採用し、書架の配置を工夫して、カウンターから奥の児童コーナーまで見通せるようになっている。



開架閲覧室

また、新聞架は1階ホールに、雑誌架は図書館へと続く2階通路にと、いずれも図書館外に設置したため、図書館閉館時も併設施設の利用者などが自由に閲覧することができる。



雑誌閲覧コーナー

リニューアルに際し、閲覧席を11席から40席へ増やし、閲覧席も満席となった場合は併設の生涯学習センター会議室の1室を臨時閲覧席として開放するため、学生など多くの人が利用している。

節目を迎えた図書館

尾張旭市立図書館：開館40周年を迎えて

尾張旭市立図書館 池田和義

■はじめに

当館は、1980年の市制施行10周年記念事業の一環として、1978年にはじめての図書館建設が計画され、1981年4月に開館した。蔵書数は約4万冊であったが、開館当初からコンピュータを導入し、利用者の便宜を図ってきた。

2020年12月に市制施行50周年の節目を迎え、令和2年度には図書館を含め、市全体で様々な記念事業が計画されていたが、新型コロナウイルス感染拡大により多くの事業が翌令和3年度に延期となった。

そして、2021年4月は当館の開館40周年にあたり、両節目を記念する事業を感染対策を講じて開催した。

■市制50周年・開館40周年記念事業**1 絵本作家による講演会**

2021年3月、絵本作家とよたかずひこ氏による、「開館40周年おめでとう！ももんちゃんがお祝いにやってきた！」を開催し、絵本創作にまつわるエピソードなどをお話いただいた。講師自身による読み聞かせも行われ、親子にも楽しんでいただけた。



とよたかずひこ氏による読み聞かせ

また、11月には、「長野ヒデ子さんにあいタ〜イ！絵本と紙芝居の魅力」と題し、絵本作家長野ヒデ子氏をお招きした講演会を実施した。

2 ワークショップ等

親子などを対象とした事業を開催した。

8月には「Dr.リンのわくわく科学実験教室〜親子で立体万華鏡をつくろう〜」では、オリジナルの万華鏡を作成するワークショップを実施した。

また、「図書館で妖怪ナイト」では、あいち妖怪保存会の島田尚幸氏による妖怪のお話を聴いた後、閉館後の暗闇の館内探検を楽しんでいただいた。



図書館で妖怪ナイト

12月には、「オリジナルブックカバーを作ろう」を開催し、世界に一つだけのオリジナルのブックカバーを作成するワークショップを実施した。

3 展示等

「図書館のあゆみ」の常設パネル展示や、期間を限定した展示を行った。

- ・「見てみよう世界の絵本」（外国語の絵本の展示）
- ・「絵本のにんぎものがいっぱい」（人気の絵本と登場するキャラクターのぬいぐるみの展示）
- ・「あの頃あの本〜尾張旭市民の皆様へ愛された本〜」（40年の間に多く貸し出され読まれた本の展示）

■おわりに

開館以来多くの市民にご利用いただいております（延べ446万5千人、約1,648万冊の貸出し利用（2021年3月末まで））、蔵書も約22万冊となり、この間に様々なサービスの充実も図ってきた。施設の老朽化や蔵書の収容能力の限界といった問題も抱えているが、これからも市民の生活や学びを支える生涯学習の拠点として、さらに身近で多くの方から親しまれる図書館を目指していきたい。

東浦町中央図書館開館30周年記念

東浦町中央図書館 長谷川祐里

当館は2021年7月に開館30周年を迎えた。開館30周年を記念し、様々な企画を実施した。

■開館30周年記念イベント**『絵本作家わたなべちなつさんと一緒に
つくろう！かがみのしかけの海の仲間たち』**

絵本作家わたなべちなつさんを講師に招き、小学生までの子ども30名を対象としたトークやワークショップのイベントを開催した。

トークでは、わたなべちなつさんのかがみのしかけを用いた作品の紹介や、かがみのしかけのえほんシリーズの出版に至るまでの秘話をお話いただいた。子どもたちは、絵本のしかけがどのように生まれたのか興味を持ち、熱心に話を聞く姿が見られた。

ワークショップでは、子どもたちが実際に、鏡のしかけを用いた海の生き物カードづくりを行った。鏡のような紙にイラストを描き、海の生き物が立体的に見えるふしぎなカードを作成した。



30周年記念イベントの様子

出来上がったカードは、パネル土台に飾られることで、ひとつの大型作品となった。最後には記念撮影も行い、イベントを大盛況に終えることができた。

■開館30周年記念トートバッグ限定販売

開館30周年を記念して、当館のマスコットキャラクター「よむらび」のイラストが入ったオリジナルデザインのトートバッグを500個作製し、1個300円(税込)で館内販売した。また、図書館のイベントの景品や『東浦町読書感想文・感想画コンクール』の受賞者記念品として配付も行った。

■新視聴覚・ブラウジング

「ゆめらびコーナー」リニューアルオープン

2021年7月に、視聴覚・ブラウジングコーナーをリニューアルオープンした。

内装が一新され、明るく開放的な空間へ生まれ変わった。視聴覚ブースや家具が新しくなったほか、趣味や新しいことを始めるときに役立つ入門的な資料を常設展示している。

当コーナーは、一般公募で名付けられた「ゆめらびコーナー」の愛称で親しまれている。当館のマスコットキャラクター「よむらび」がみんなの夢を広げるお手伝いができるようにという思いが込められている。



トートバッグ限定販売

ゆめらびコーナー

愛知県図書館開館30周年

愛知県図書館 成田克己

1991年4月20日に名古屋城三の丸西南隅の現在地に開館した愛知県図書館は、2021年に開館30周年を迎えた。それを記念し4月から7月にかけて開館30周年記念展を開催し、開館前後の写真や新聞記事、その他の関連資料を展示したほか、2021年度は年間を通して開館30周年に関わる展示、イベントを続けて行った。10月29日には豊橋市図書館の岩瀬彰利氏、慶應義塾大学の福島幸宏氏を招き、記念講演会「公共図書館の過去・現在・未来」を開催、多数の来聴者を得た。

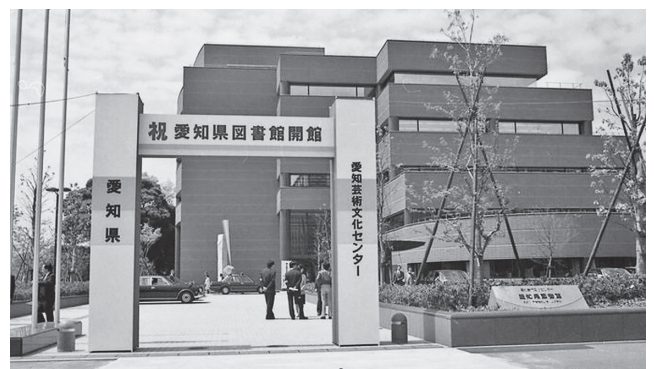
1959年に開館した愛知県文化会館愛知図書館を継承し新たに開館した愛知県図書館は、愛知芸術文化セ

ンターの一翼を担い「県民に開かれた図書館」、「資料情報センターとしての図書館」、「市町村立図書館へのバックアップを行う図書館」を基本的性格とし、旧館で行っていなかった電算システムによる蔵書管理や大規模開架、館外貸出のほか、児童資料、視覚障害者資料やAV資料のサービスを始めた。1948年設置の愛知県立(中央)図書館が文化会館建設以前に開始し、同館廃止後は県教育委員会が行っていた県域への移動図書館事業も、開館時に引き継いでいる(2000年廃止)。ちなみに1950年発足の愛知図書館協会は、最初は千種区城山の昭和塾堂にあった愛知県立図書館に事務局を置いていた。

開館から30年。県図書館の建物は同じだが、体制やサービスの内容は時代の進展や社会の変化に応じて少しずつ変化してきた。蔵書検索、県内横断検索の公開、ティーンズ、ビジネス情報、多文化等のコーナー設置、貴重和本や絵図等のデジタルライブラリーの公開、最近の電子書籍等新たに始めたものもあれば、休止したサービスもある。市町村立図書館への協力貸出は当初郵送で行っていたが、1994年に宅配便による資料定期搬送便に移行し、その後東海北陸地区の県立図書館とも定期便を運行するようになった。2018年には1階エントランスにYotteko(ヨッテコ)が設置され、場としての図書館の可能性が広がった。

県域全体へのサービスを重要な責務とする県図書館にとって、市町村立図書館との連携協力は必要不可欠である。30年間の県内図書館の充実はめざましく、それなしに県図書館の歩みを語ることはできない。

記念展で展示した30年前の開館前後の新聞記事を読むと、新しく建設される県図書館に対し当時県民からいかに大きな期待が寄せられていたかをひしひしと感じる。その後の県図書館はその期待に充分応えているだろうか。それについて常に自らに問い続けつつ、少しでもその期待に応えられるよう努めていかなければならないと感じている。今後もより一層のご利用と、ご指導ご支援をいただければ幸いである。



1991年4月19日 開館式の日々の愛知県図書館

公共図書館の電子書籍サービス

愛知県内では、2021年に愛知県・名古屋市をはじめ8自治体が電子書籍サービスを開始した。

2022年2月開始の蒲郡市をあわせ、現在15の自治体で電子書籍が導入されている。

図書館を持ち歩こう

～名古屋市図書館の電子書籍サービス～

名古屋市鶴舞中央図書館 大井亜紀

■はじめに 名古屋市図書館は、2021年6月10日に電子書籍サービスを開始した。紙の書籍とは別に一人3点2週間借りることができ、予約は3点可能である。図書館オンラインシステムと連携させており、共通貸出券とパスワードで電子書籍を利用できる。また、WebOPACで紙の書籍と電子書籍を一括して検索可能である。

■導入の趣旨・経緯 本市の電子書籍サービスは、読書バリアフリー法に基づき、障害の有無に関わらず全ての人が読書しやすい環境を整えるために導入された。このため、公募型プロポーザル実施の際も読書バリアフリーに資する機能・コンテンツの有無に重きをおいて評価を行い、事業者を選定した。

■本市の特徴 電子書籍の選書にあたっては、愛知県図書館の電子書籍との分担を意識し、気軽に読める本や子どもたち向けの本をできるだけ多く購入するようにしている。

また、電子書籍は検索して本を探すのではなく表紙を見て直感的に本を選ぶ利用者が多いことから、トップページに表示される特集を20以上準備し、テーマや表紙の入れ替えを頻繁に行うことで利用促進を図っている。例えば郷土の作家 小酒井不木著『名古屋スケッチ』は比較的利用の少ない青空文庫の中でもよく借りられており、特集の効果が表れている。利用者からは「特集のおかげでこれまで読まなかったジャンルの本に出合えた」と好評を得ている。

さらに、貸出可能な電子書籍を一覧表示させるリンクバナーを「今すぐ読める本」ボタンと名付けて7月に新たに設置したが、こちらも「スキマ時間を活用して本を読みたいときに便利」とたいへん好評である。

■おわりに 現在、本市が提供する電子書籍は1万4千冊を超え、1か月あたり約6千5百人、1万点の利用がある（2022年1月末）。

今後も、障害者の利用促進、子どもたちが利用しやすい環境整備などに取り組み、より多くの市民に電子書籍をご利用いただけるよう工夫を重ねていきたい。

愛知県図書館の電子書籍サービス

愛知県図書館 川島仁子

愛知県図書館は、2021年1月26日、電子書籍サービスを開始した。1年経過した2022年1月末のコンテンツ数は5,602冊で、学術専門書中心のラインナップである。電子書籍を選定する際は、調査研究に役立つ資料や情報を収集するという当館の資料収集方針を適用している。

導入の際は、県立図書館のサービスは県内全域が対象となるため、市町村が提供している電子図書館と重複しないことも意識し、プロポーザルの結果、紀伊國屋書店の「KinoDen」に決定した。



愛知県図書館KinoDenトップページ画面

電子書籍サービスの利用には、当館の利用カードとパスワードが必要で、当館Webサイトのマイライブラリにログイン後、KinoDenのページに移動して閲覧できる。貸出型ではなく、アクセスした時だけ利用できる閲覧型サービスである。

同時に利用できるのは、1コンテンツにつき原則1人で、2人目以降は試し読みが可能。これまで1日あたり200～300回のアクセスがあり、2020年8月から2021年7月までのKinoDenアクセス数ランキングにおいて、提供期間が7か月弱にも関わらず、364機関中1位となった。

電子書籍は、休館中でも自宅や職場から気軽に利用できる。これまで図書館に足を運ぶことが難しかった層にも図書館サービスを届けられる画期的なサービスであり、今後も一層の充実を図っていく予定である。

なお2022年1月からは、要望の多かったオンライン利用登録を開始し、非来館者への利便性を高めている。

紙とデジタルの両方を上手く組み合わせ、より良いサービスを提供できるよう努めていきたい。

会員館最近の話題から

ライブラリ・メイカースペースの開設

名古屋大学附属図書館 萩 誠一

2021年7月1日、中央図書館にライブラリ・メイカースペース（以下「MS」という）を開設した。MSは近年利用しやすくなったPC制御の工作機器を活用して利用者（メイカー）が「ほぼあらゆるものをつくる」ことができる工房であり、モノづくりに必要な知識を利用者同士で情報共有できるスペースである。愛知県内では民間のファブラボが複数開設されているが、公共施設では安城市図書館情報館に3Dプリンタや3Dスキャナが設置されたり、近隣の教育機関でも愛知大学や三重大学、岐阜大学に同様の施設が開設されたりしている。本学でもすでに研究目的や一部のコース受講者向けに別途設置しているが、MSは利用目的を限定せずに文理を問わず東海国立大学機構（岐阜大学・名古屋大学）に所属する学生・教職員が自由にモノづくりできる学びの場として開設したものである。

MSには、3Dプリンタ、レーザ加工機、ミリングマシン、カッティングプロッタ、高機能ミシン等の工作機器、テスターやオシロスコープ、3Dスキャナ等の計測機器、インパクトドライバや電動のこぎり、はんだごて等の工具があり、木材や電子基板、アクリル板、布等の多様な材料に対応できるようにした。また、利用者同士が容易に情報共有して活発な議論ができるように電子黒板を用意するとともに、学外のMS等とも情報交換できるように電子会議システムも整備した。

実際の運営は、職員は安全研修と利用申請許可等の管理を行い、機器利用に関する技術指導は学生スタッフが担っている。利用者同士、利用者・スタッフ間でも技術情報を交換し合い、ともにスキルアップしており、開設の効果が見え始めている。経費面では、3Dプリンタの材料や消耗品は企業からの寄附金で賄っており、現時点では無償で利用可能である。今後は、利用者が必要最小限の負担を求めていくことが必要と考えている。

開設して数ヶ月しか経っていないが、研究で使用する治具の製作、発掘考古物の複製、サークル活動で使用するロケットの部品製作、起業のための研究開発製作、家で壊れたものの補修等、課題を持ち込んだ利用者自身が様々なものを作ってきた。今後、MSの利用者から先端技術を活用する人材が育ち、モノづくりに根差した起業家マインドが醸成されることを願う。

愛知大学貴重資料デジタルギャラリーの公開について

愛知大学図書館長 塩山正純

愛知大学は1946年の創立以来、様々な学術的な貴重資料を蓄積してきた。学内外からの利用希望に対しても非常にオープンな伝統があるが、これまでの貴重資料の利活用に関する取組みは、戦後日中関係史の重要資料であるLT・MT貿易関係資料の影印出版然り、総じてアナログ的で発信の範囲と量に限界があった。より広範囲に発信して貴重資料の活発な利活用を促そうと、図書館、国際問題研究所（国研）、総合郷土研究所、国際中国学研究センター、東亜同文書院大学記念センターで2019年にデジタル化プロジェクトを開始し、2021年6月25日から貴重資料デジタルギャラリーとして一般公開している（<https://arcau.iri-project.org/>）。

わたしの周囲の研究者や事務職員は常より**私蔵・秘蔵は死蔵、資料はそれを必要とする者に利用されてこそ価値がある**という考えを共有してきたが、すでに一部単位で貴重史料が散佚した事例もあり、保存の意味でもデジタル化の取組みが急務であった。事務局からも総じて好意的な理解があり、学内助成「愛知大学特別重点研究」に国研が中心となって申請、採択されて活動がスタートした。目下、活動三年目だが、全てが順風満帆に進捗してきたわけではない。キーパーソンの交代や事務職員の人事異動、業務負担の過多などが重なり、デジタル化の仕様決定や入札プロセスが思わぬ方向に外れたり、滞ったり、徒らに時間だけが過ぎて予算の次年度繰越しと、当初はトラブルの連続だった。軌道に乗ってからも資料選定、調査、撮影、全ての工程に手間暇がかかる上に、公開資料の二次利用ルールとしてのクリエイティブコモンズ適用が学内の認められるのにも相当の時間を要した。

とかく研究者は「やりたい」思いが先行するものだが、大学組織で新しい挑戦をするには、車の両輪のもう一方である事務職員との二人三脚も欠かせない。現在進行中のデジタル化プロジェクトは5年限定であるから、愛知大学の研究の「いま」に直結した役割を担えるように、この先の展望も考えねばならない。

ギャラリーを実際に訪ねて頂けると、古地図の精緻な筆致を高精度デジタル画像で細部まで楽しめるし、先述のLT・MT貿易関係資料も近日公開予定である。愛知大学の取組みをぜひご覧いただきたい。



PICK UP

研修紹介

コロナ下の研修

2021年度の研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況をみながら、いくつかを集合研修で、またいくつかは通信形式の研修として開催した。集合で行った研修でも密をとまなう実習を避けるなど、通常と異なる対応が要求され、試行錯誤しつつの実施となった。

要望の多い児童サービス研修は、実習が欠かせないことから、定員を例年の半数（10人）にしぼって集合での連続講座として開催に踏み切った。実際に保育園児や図書館利用者を聴衆としたおはなし会の実習は中止とし、科目によっては広い会場に移して距離をとるなど、感染症対策をしながらの研修となり、参加者にも不便を強いることとなったが、わらべうたや読み聞かせの方法など、対面でなければ伝わらないことも多く、集合研修の意義は大きかったといえる。読書会では感染対策として机上にパーテーションを設置しておこなった。ポリ塩化ビニル製のパーテーションは視界がクリアで会話にもさほど支障がなく、安心感にも繋がった。一方で、人数の半減により受講機会が減ることや、研修メニューが制限される、他の受講生との交流がままならないなどの弊害はやはり大きく、通常通りの研修開催が強く望まれている。また、ステップアップ研修（紙芝居）も集合研修として開催した。ステップアップ研修は受講生による実演と講評が中心であるため、オンラインや配信にはそぐわない。こちらも2年ぶりに開催が叫び、10人が受講した。

レファレンスサービス研修は昨年度に引き続き、すべて通信形式でおこなった。音声配信による「初級（基礎編）」、動画配信による「初級（実践編）」は人数制限を設けず、一定期間いつでも視聴可能としたため、基礎編・実践編あわせてのべ177名の参加申込があった。レファレンス演習を扱う中級では、通信添削の実習を含むため人数の制約があり、今年度は25名が受講した。資料配付、課題添削に加え、試行的にウェビナー形式のオンライン講義を行い、終了後にはアーカイブ配信を行った。通信形式、配信による研修は、集合研修にくらべ、時間や地域の制約が少ないなどのメリットもある。

近年、隔年で開催している資料保存研修は、実習中心の実践的な内容で会員種別を問わず要望が高い研修

だが、実習が密になることから、今年度は外部講師による実演を含む講演会形式で開催した。製本のプロを招いての研修はアンケートでも大変好評だったが、直前にまん延防止等重点措置が適用されたこともあり、当日は欠席者が相次いだ。終了後に録画による配信も行ったが、実習を望む声はやはり大きい。

この他、日本図書館協会の研修DVDを利用した、動画配信による「読書バリアフリー研修」を開催している。

愛知図書館協会 会勢

(2022年2月1日現在)

施設会員	93
公共図書館	64
専門図書館	4
大学図書館	22
その他	3
個人会員	74
賛助会員	9
計	176

事務局日誌 (2021年3月～2022年2月)

2021/3/25	第2回理事会（書面決議）
4/7	令和2年度会計監査（愛知県図書館）
5/7	令和3年度総会（書面決議）
5/26	第1回理事会（書面決議）
6/17	第1回研修委員会（ウェブ会議）
6/24	児童サービス研修①（県図）
7/9	児童サービス研修②（県図）
9/10	児童サービス研修③（県図）
10/19	レファレンスサービス研修（初級・基礎編）開始（通信講座として開催：～12月中旬まで） レファレンスサービス研修（中級）開始（通信講座として開催：～1月下旬まで）
10/27	レファレンスサービス研修（初級・実践編）開始（通信講座として開催：～12月中旬まで）
10/28	児童サービス研修④（県図）
12/1	児童サービス研修（ステップアップ：紙芝居）（県図）
2022/1/27	資料保存研修（県図）
2/1	読書バリアフリー研修開始（通信講座として開催：～3月末まで）
2/4	児童サービス研修実行委員会（県図）